

閉会のあいさつ



(財)集団力学研究所所長
九州大学名誉教授

安藤 延 男

(財)集団力学研究所の所長の安藤でございます。

本日は長時間に亘り、基調講演、それから、只今のパネルディスカッションが行われました。本当に、充実した4時間半であったと、心から感謝をしている次第でございます。よくこういう時は、「お疲れさまでした」と言うんですが、お疲れさまである以上に、非常に刺激を受けております。

昨年の福岡県西方沖の地震から考えますと、ある意味で本年度は、「減災元年」と名付けてよろしいのではないかと考えております。

このシンポジウムのコーディネーターをお勤めいただきました(株)西日本新聞社の菊池編集局長様、本日は本当にありがとうございました。

実は、本日のシンポジウムの計画を立ち上げて今日まで、大体4カ月という月日が経っております。講師及びパネリストの方々が登場されたとは思えないくらいの内容で、本当に菊池様の事前のコーディネートが非常によかったからであろうと、本当に心から菊池様に感謝をしている次第でございます。

そこで、ちょっと一言だけ申し上げさせていただきます。研究所の紀要が皆さまの封筒に入っていると思います。これはご覧のとおり、昨年のシンポジウムをこういうふう記録にしたものでございます。当然のことながら、本日の熱心な討論もこういう形で、冊子にまとめる予定でございます。昨年が22回のシンポジウム、今日が23回のシンポジウムで、これをまとめることにいたしておりますので、次の紀要もお楽しみにしていただけましたら、ありがたいことでございます。

それと、せっかくのことでございますから、簡単にわが研究所の活動につきまして、ご報告をさせていただきます。私どもの研究所が年間ベースで研究のテーマとしておりますのは、『学校教育』、あるいは『教師の人間関係力』といったようなものを、どのように開発していくか、あるいは研修していくか、といったテーマを1つ掲げております。それから『コミュニティーの問題』で、『コミュニティー力を高める』というようなプログラムを、どう作り上げていくか、というようなこともやっています。それに、従来からやっております、『企業等のリーダーシップの問題』、あるいは『安全・文化の調査・研究の問題』といったようなこともやっております。そしてそれ以外に、関西にございます『原子力安全システム研究所との共同研究』、これが毎年継続的になされております。それから、3年前には、『内閣府の原子力安全委員会との共同研究』

というような、外部の団体との共同のプロジェクトもあったということを、皆さまにご報告させていただきます。

本日は、本当に長時間ありがとうございました。来年の2月には、また、このシンポジウムを企画することになっています。皆さまもこの1年間、それぞれの場所で、特に減災防災について力を入れていただきまして、また来年お目にかかることができますように、お願いしたいと存じます。今日はどうも本当にありがとうございました。